

視察事前調査

1. 中央卸売市場

今回の視察の目的のひとつは、都政の課題である豊洲新市場建設に向け、海外の先進事例を学び、その良いところを生かし、よりよい新市場を築いていくことであるが、一方で、都政の現状の確認をする必要もあることから、築地市場、大田市場の視察を行った。

①築地市場の視察

平成25年10月、今回の視察に先んじて東京都の中央卸売市場の現状を確認するために、築地市場の水産市場、青果市場を視察した。早朝5時に集合し、水産卸売市場のまぐろの競り状況を中心に視察した。まぐろの競り風景は、観光の対象となっており、当日も外国メディアの取材もあり、外国人観光客の見学も行われていた。



<築地市場>

築地市場の老朽化が至る所で進み、防災の観点からも早期移転が望まれる。また、食品の品質管理のためにも温度管理を施設全体で行うコールドチェーンの実現が必要であるが、老朽施設では実現できず、食品の品質管理、安全確保のためにも新施設の建設が待たれる。

また、取引された食品の運搬のため多くの車両が行き交っており、安全性の観点から大きな課題である。また、排気ガスの問題など、環境面からも改善が求められている。更には、使用済み発泡スチロールが大量に処理されており、処理の効率化、ごみの減量などが大きな課題である。



<マグロの競り>

②大田市場の視察

築地市場を視察した同日、大田市場の水産市場、青果市場、花き市場を視察した。大田市場は築地市場と異なり新しく、広大で、整然とされた市場である。

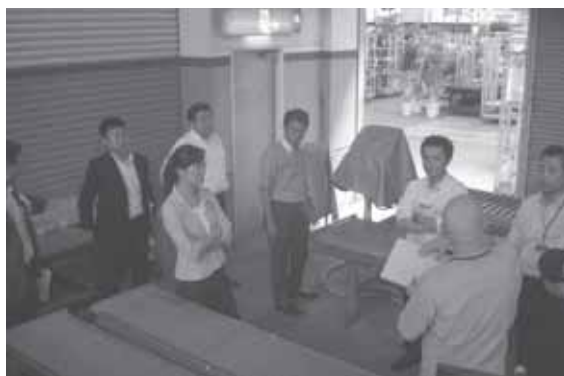
青果市場は多品目で大量に取引が行われており、処理能力の高さは豊洲でも生かされると感じた。

水産市場は、築地市場ほどの魚が入らず、活気はあまり感じられなかった。しかし、築地市場よりは新しい施設のため、衛生的であり機能的である様に感じられた。大田市場もコールドチェーン化されておらず、豊洲新市場での温度管理体制の構築により、品質管理が行われることに多いに期待がもたれる。

花きは、インターネットを利用した取引が行われており、先進的市場として注目されている。また、取引場所の地下には倉庫があり、更には配送場所とも運搬システムで全体が結ばれており、無人化、効率化が進んでいる。将来を担う最新市場として豊洲新市場でも参考すべきシステムであると強く感じた。



<大田市場の青果部>



<花き市場で説明を受ける>

大田市場にも、駐車場の確保、電源設備等の改善等の課題もあるが、東京の食の拠点としての大きな役割

を果たしている事を確認した。

豊洲新市場は、更に巨大な市場となり、取引効率、輸送効率、環境対策、新たなにぎわい創出などまだまだ多くの課題があると認識している。今回の海外調査を通じて、豊洲新市場を更により良い市場とするため、取り組んでいきたい。